

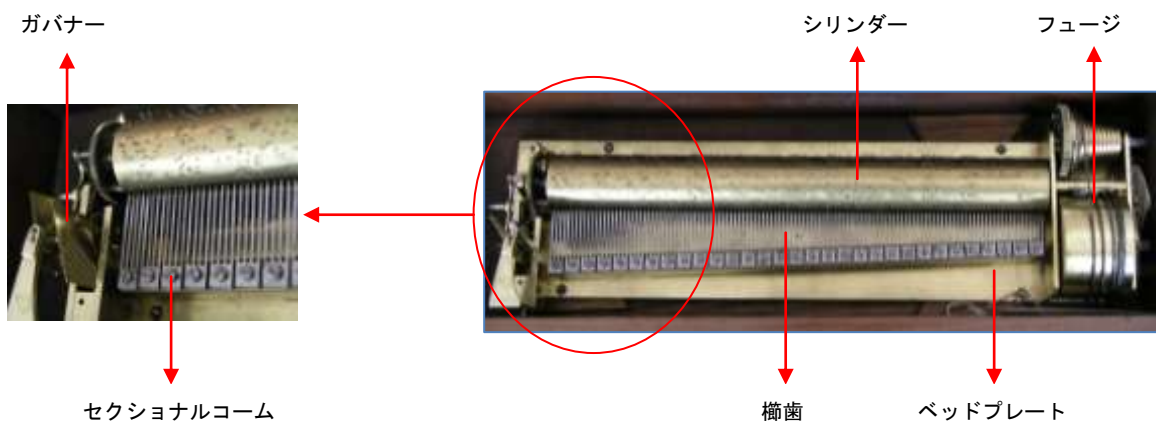
〒662-0088 兵庫県西宮市苦楽園 4 番町 7-1  
TEL.0798-70-0656(ナレオルゴール) FAX.0798-72-0110  
<http://www.orgel-horie.or.jp/> E-mail [info@orgel-horie.or.jp](mailto:info@orgel-horie.or.jp)

## シリンダー・シリーズ 1

シリンダーオルゴールは、ピンを取り付けた金属の円筒(=シリンダー)を用いて、自動的に音楽を演奏する楽器です。シリンダーが回転すると、取り付けられたピンが長さの違う金属板(=櫛歯)を押し上げ、弾くことによって音を奏でます。シリンダーの動力にはゼンマイが使われており、ガバナーと呼ばれる高速に回転する羽が、空気抵抗を作り出すことによって、シリンダーに伝わるゼンマイの力を抑える働きをします。羽は折りたためるようになっていて、大きく広げると空気抵抗が大きくなり、シリンダーの回る速度、つまり曲を演奏するテンポが遅くなるなど、速度調節の役割を果たします。このような基本的な原理は、シリンダーオルゴール一般に共通すると言って差し支えありませんが、より細かな構造や外装には、時代やメーカーによって様々な工夫が施されています。そこで今回は、初期型のシリンダーオルゴールを取り上げ、その特色を紹介したいと思います。



セクショナル コーム フュージ ムーブメント  
SECTIONAL COMB FUSEE MOVEMENT  
メーカー不詳  
UNKNOWN  
1800~1820 年頃  
スイス  
5.5cm×30.5cm(直径×長さ)  
H9×W44.5×D15



これは、1800~1820 年頃に作られた初期型のシリンダーオルゴールです。このオルゴールの最も視覚的な特徴として、セクショナルコームが挙げられます。セクショナルコームとは、初期型のシリンダーオルゴールに特有の細かく区切られた櫛歯(コーム)のことです。このオルゴールでは4本に分かれていますが、他にも1本や6本に区切られているものなど、様々なタイプがあります。またこのオルゴールには、ガバナーとは別にゼンマイの力を調節してシリンダーに伝えるフュージと呼ばれる機構が備わっており、これも初期型にのみ見られる特徴となります。

次に、音に関する特徴を紹介します。まず、初期のシリンダーオルゴール製作においては、シリンダーの内側に松脂を流し込むという手法が確立されていなかったため、その演奏は金属的な固いものにならざるを得ませんでした。松脂はピンをシリンダーにより強く固定する役割も果たしますが、ピンが櫛歯を弾いたときに出る音の質にも大きく影響し、中期以降の松脂が入られたシリンダーオルゴールの演奏は、初期に比べて音の響きが柔らかくまろやかになります。また、全ての部品が乗せられている基礎の部分をもベッドプレートと呼び、これは部品をケースに固定するための装置ですが、部品と直に触れ合っているため、演奏の際は音の共鳴を大きく左右します。初期にはベッドプレートの原料として真鍮が使われていたため、音があまり響かず、飾り気のない素朴な演奏のものが多かったようです。

## 通常プログラム

4月～6月

オルゴールとオルガン

19世紀のオルガン奏者のように、手廻しオルガンを実際に体験演奏できます。

毎週木曜～日曜（祝日）

① 10：30

② 13：00

③ 15：00

\* 20名様以上の団体の方は事前予約で火曜水曜も開館致します。



もっと楽しみたい方は。。。

## 春の庭園特別公開

4月28日（日）～5月26日（日）

木曜～日曜、祝日

\* 20名様以上の団体の方は事前予約で火曜水曜も開館致します。

オルゴールの演奏後、歴史の面影を残す当館の庭園で新緑のもみじとツツジ科の花をご観賞下さい。

## ワーグナー&ヴェルディ生誕200年特別演奏

### 庭園特別公開中の毎週日曜

大型自動オルガン「エオリアンオーケストラ型」の生演奏を新緑の風にのせてお届けします。庭園でのほんのひととき、白亜の洋館から聞こえてくるワーグナーとヴェルディの音楽をお楽しみ下さい。（雨天時中止）

毎週日曜日 午後2時より

## オルゴール博物館ニュース



旧堀江邸の外壁補修工事を行いました。



今年も庭園の春の花が咲き始めました。うぐいすも例年通り庭にやってきて美しい声で鳴いています。春の庭園公開が待ち遠しいオルゴール館の庭です。